



練馬区町会・自治会デジタル活用事例集

令和5年3月

練馬区地域文化部協働推進課

はじめに

～ある日の協働推進課での会議にて～



最近では、デジタルの進歩によって生活の中で多くのことが便利になったなと思います。こういったデジタルの活用を町会・自治会の活動にうまく取り入れることができればいいんだけど…、具体的にはどんなことをしていけばいいんだろう…



それを考えるためには、町会の課題を合わせて考える必要があるよね。例えば、町会からの情報を町会員にスムーズに発信したい、回覧板がうまく回りきらない、役員間の連絡や会議に手間と時間がかかるなど、こういった課題を解決するためにデジタル活動を支援していくのはどうだろう？



たしかに！いま挙げた課題だと、ホームページやSNS、LINE、Zoom[※]などを活用すれば、解決することが出来そうです！



そうだね。そして、実際に練馬区でもそういったデジタルを活用した取組を行っている町会・自治会があるのは知っているよね。そこで、デジタル活用を始めていない町会にはどういったことができるか考えてみようか。



私だったら…他の町会がデジタル活用を始めたきっかけとか運用していく中で困ったこととかがあったら教えてほしいな。自分たちの町会でもできるのか参考にしたいし。



それなら、町会・自治会のデジタル活用の取組をまとめた事例集を作ってみるのはどうかな？実際に運用されている町会の方の話をまとめたら、参考になると思う！



それいいかも！デジタル活用を始めていない町会・自治会は、はじめるきっかけになるし、すでに取り組んでいる町会・自治会もお互いの活動を知ることができるよね！



それでは、これまで協働推進課がお手伝いさせていただいた町会の方や独自にデジタル活用に取り組んでいる方のお話を冊子にまとめて、皆さんにお伝えすることにしよう！

用語解説

ホームページ …… 各団体（ここでは町会）が運営・管理するWebサイト

SNS …… ※ 4 ページで詳しく説明しています

LINE …… ユーザー同士で無償でメッセージのやりとりや音声通話ができるサービス

Zoom …… スマホやパソコンを使ってWeb上で会議を複数人で行うことができるサービス



目次

1 いざ情報発信！

(1) ホームページ

- 練馬区立区民協働交流センターHP・掲示板機能の利用 2
【南大泉四丁目第2町会】
- 共通プラットフォームを利用したHPの作成・運用【石神井台沼辺町会】... 3

(2) SNS

- 主な情報発信向けのSNSの種類と特徴 4
- SNS勉強会・体験会への参加【西大泉連合町会】 5
- Twitterを活用した情報発信【大泉町二丁目町会】 6
- Instagramを活用した情報発信【春日町町会】 7
- Facebookを活用した情報発信【桜台親和町会】 8

2 スマホを使えば情報が得られる！

- 町会でスマホ教室を開催【石神井町石神町会】 9

3 役員の連絡・会議が超便利！

(1) LINE (ライン)

- LINEを活用した連絡【関町南北町会】 10

(2) Zoom (ズーム)

- Zoomを活用したオンライン会議【光が丘地区連合協議会】 11

4 その他（呼びかければ見つかる人材）

- デジタル人材への呼びかけ【北町二丁目町会】 12
- あとがき 13



1 いざ情報発信！

(1) ホームページ

『デジタルで情報発信』のはじめの一步！

～練馬区立区民協働交流センターHP・掲示板機能の利用～



南大泉四丁目第2町会
副会長・庶務担当
佐々木 高信 (72歳)

◆ホームページをはじめたきっかけ◆

南大泉連合町会を構成する各町会がホームページを立ち上げ、運用していくことになりました。協働推進課に相談したところ、練馬区立区民協働交流センターホームページの町会ページの活用を紹介していただきました。町会独自のホームページを立ち上げるよりは簡単と伺ったので、チャレンジしてみました。

◆やってみて思ったこと◆

活用するにあたり、区民協働交流センターのスペースで、協働推進課の担当者にホームページの編集操作をマンツーマンで教えてもらいました。また、ホームページ内にマニュアルも掲載されているので、操作は簡単に覚えることができました。現在は、2週間に1回程度、まとめて情報を更新しています。ホームページに掲載したいチラシのサイズが大きかったり、枚数が多かったりするとスキャンするのが大変ですが、なんとかやっています。また、担当者が私1人であり、継続してホームページを更新しているため、操作にはだいぶ慣れてきました。今後は、町会独自のホームページにも挑戦して、多くの情報を発信してみたいです。



町会トップページに基本情報を掲載



回覧板のような紙のデータも掲載可能(右下)



ホームページの
二次元コード ※

※二次元コード・・・スマートフォンなどのカメラで読み取ることで、指定のwebページなどにアクセスすることができるコード

POINT

- 練馬区立区民協働交流センターのホームページは掲示板機能があり、町会の情報を掲載できます。
- デジタルにあまり詳しくなくても、簡単に情報発信できます。
- 以下の情報を掲載できます。
 - ・回覧板 ・掲示板 ・町会員の募集
 - ・イベントや活動の開催内容および日程の告知 ・イベントや活動を文章や写真で報告 など
- 活用にあたっての費用負担はありません。利用方法は区職員がサポートします。



1 いざ情報発信！

ホームページは区で用意したものを活用！ お手軽に作って情報発信！

～共通プラットフォームを利用したHPの作成・運用～
※



石神井台沼辺町会
ホームページ
プロジェクトリーダー
本橋 茂（70歳）

◆ホームページをはじめたきっかけ◆

令和2年から新型コロナウイルス感染症が蔓延したことにより、町会のイベントや活動の多くが制限される日々が続いていました。そういった状況下でも、町会の活動や区の情報を発信できないかと考え、町会としてホームページを立ち上げることを検討しました。

◆立ち上げから運用開始まで◆

協働推進課に町会ホームページの立ち上げについて相談したところ、区で用意した共通プラットフォームを町会ごとに活用できるとのことでしたので、区に協力をお願いしました。また、ホームページの編集に必要な最低限の資機材（PCなど）のことや、すでにホームページを運用している町会の情報も教えていただき、しっかりと事前準備ができました。

◆実際にホームページをはじめてみて◆

特に苦労したのは、ホームページの編集操作を覚えることとトップページのレイアウトの作成でした。いずれも区の職員に何度も立ち会ってもらい、相談しながら習得することができました。また、私と2名を含めた計3名でホームページの編集チームを組んで運営しています。月に1回編集会議を行うことで、町会の活動予定や地域の行事をはじめ、皆様に役立つ情報を発信できるように掲載内容を相談しています。



トップページに町会ホームページの二次元コードを配置



地域に関連が深い内容を掲載

※共通プラットフォーム・・・ ホームページを作り、インターネット上に掲載するために区が用意したソフトウェア

POINT

- インターネット上の共通プラットフォームを活用して、町会個別のホームページが作れます。
- 共通プラットフォームの活用についての費用負担はありません。利用方法は区職員がサポートします。
- 町会の由来や独自の情報、さらに、イベントの写真および動画なども掲載することができます。



1 いざ情報発信！

(2) SNS

SNSとは... ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。Web上で社会的ネットワーク（個人や団体とのやりとり、情報発信や受取）を構築可能にするサービス。スマホやパソコンで操作ができる。

主な情報発信向けのSNSの種類と特徴



Instagram (インスタグラム)

写真や動画を投稿、視聴するサービス
アカウント匿名可

- 👍 ・視覚を使った広報活動がしやすい
- 👍 ・利用者の年齢層が幅広い
- 👎 ・写真や動画の加工に手間がかかる



Twitter (ツイッター)

情報やつぶやきなどを短い言葉で投稿するサービス
アカウント匿名可

- 👍 ・発信した情報が拡散されやすい
- 👍 ・最新の情報が得られる
- 👎 ・文字数制限がある
- 👎 ・フェイクニュースなど、情報の信憑性



Facebook (フェイスブック)

「友達」をつくり交流するサービス
アカウントは実名制・自治体名でもOK

- 👍 ・長文、複数画像、動画が投稿できるので、詳しく情報を伝えられる
- 👎 ・個人情報の登録項目が多く、情報漏洩のリスクがある

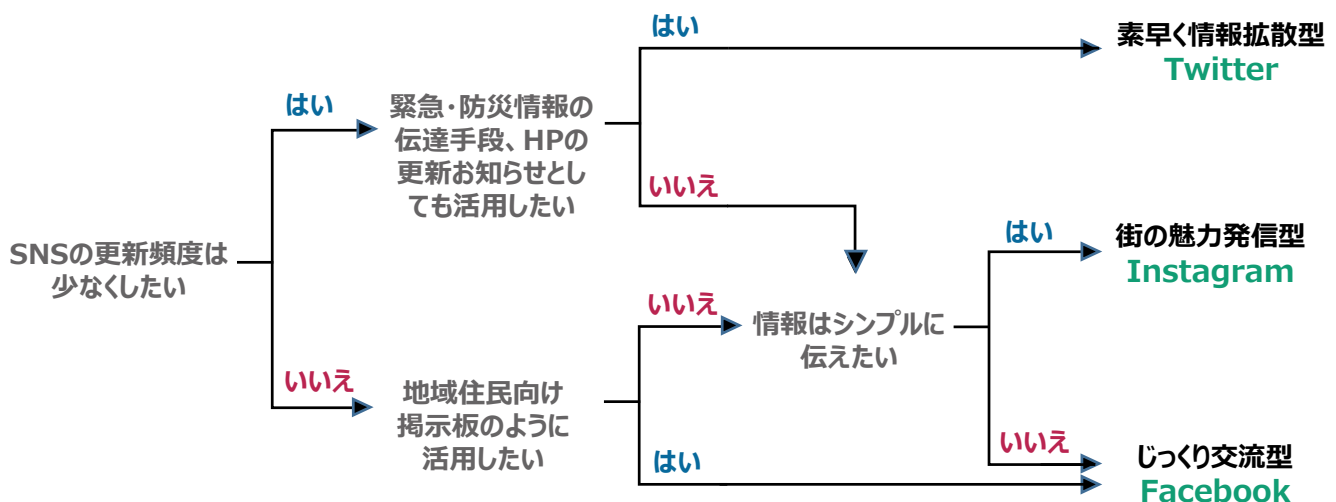


TikTok (ティックトック)

15秒～3分の動画を投稿するサービス
アカウント匿名可

- 👍 ・編集スキルがなくても、付帯の機能で面白い動画が作れる
- 👎 ・10～20代の利用者が多く、中高年の利用者が他と比較すると少ない

どのSNSを活用し始めるのが良いか、確認してみましょう



POINT

一口にSNSと言っても、上記で紹介した以外にもさまざまな種類のものがあります。そこで、まずはどのSNSが自分たちの町会に適しているか、検討してみましょう。可能であれば、様々な世代の町会員にアンケートをとってみたいかもしれません。



1 いざ情報発信！

『SNSってなんだろう？』からみんなで学ぶ！ それからどうするか考えよう！

～SNS勉強会・体験会への参加～



西大泉連合町会
副会長
榎本 一広（71歳）

◆SNS勉強会参加のきっかけ◆

当町会は協働推進課の支援を受け、令和元年7月にホームページを立ち上げました。現在では、訪問者数が7,000人を超え、町会活動を町会員の皆様に知っていただくよいツールとなっています。一方で、町会に距離を置いている若い方向けに町会活動を伝えるツールとして、SNSの必要性を感じたため、SNS勉強会に参加しました。SNS勉強会では、Instagramに特化し、アカウント登録から投稿のやり方、閲覧方法、運用時の注意点などを学びました。

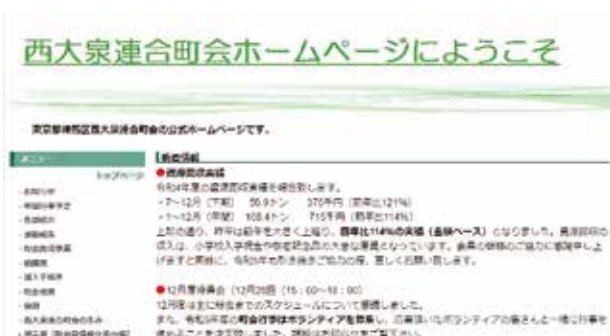
◆今後の課題と町会の取組◆

SNSの運用にあたり、課題は3つあります。1つめは、スマホ操作に慣れていない高齢の方が多く、SNSで情報を取得できない方への配慮が必要なことです。2つめは、町会活動にはInstagramでよく投稿されるような興味を引く活動があまり多くないことです。3つめは、誰が町会のSNSアカウントを運用していくかということです。投稿内容・頻度を含め、負担にならない程度にする必要があります。

これらの課題をクリアしながら、SNSを『西大泉の楽しい交流の場』として活用したいと考えています。また、情報提供のみのホームページと異なり、SNSではユーザーのビビッドな反応が得られる双方向のツールです。この反応を、今後の町会運営の貴重な情報として活用していきます。



SNS勉強会の様子



西大泉連合町会ホームページ



町会ホームページの
二次元コード

POINT

SNSを活用するために、まずは、SNSを活用する楽しさを知ることがデジタル化への第一歩です。今回のSNS勉強会では、はじめてInstagramを使った方でも、様々な投稿を見て情報を得るのが楽しい！という声がありました。町会の情報を発信するときだけでなく、日頃から個人のアカウントで情報を得たり、発信したりすることが楽しいと感じれば、自然とアプリを開くようになり、操作も段々と慣れていきます。



1 いざ情報発信！

イベントの事前周知から当日の状況まで リアルタイムで伝えています！

～Twitterを活用した情報発信～



大泉町二丁目町会
広報・会計担当
伊藤 勲（53歳）

◆Twitterの活用の仕方◆

以前は町会の夏祭りや地区祭などのイベントを行う際に、事前に情報を発信（ツイート）することで参加者を招致していました。また、当日も動画や写真とともにイベントの状況をリアルタイムでお伝えしていました。ここ数年は、コロナ禍によりイベントが開催できていないためツイートを休止していますが、再び町会活動が活性化した際にはツイートの再開を予定しています。

◆導入までの準備と運用する際に気を付けていること◆

Twitterを導入するにあたり、そもそもTwitterがどのような仕組みか、情報拡散にどのようなメリットがあるかを事前に協議しました。また、不用意な発言等による「炎上」「トラブル」には十分注意し、ツイートする際にはTPOに応じて文言を検討してから発信しました。さらに、写真や動画を掲載する際は、個人情報に配慮した確認作業を行っていますが、これが手間のかかる作業となっています。

◆運用についてアドバイス◆

導入の際には、文章力のある方と写真や動画撮影および編集が得意な方を含めた3名程度でチームを作るとスムーズに運用できると思います。さらに、日頃からTwitterを活用している若年層の方にも協力してもらえるとよりベストです。また、実際にTwitterの運用を開始した際には「#（ハッシュタグ）※」を活用することで、全国の町会・自治会のアカウントを見つけ相互フォローの関係となり、運営ノウハウや課題解決策など様々な情報を交換をすることができます。

※#（ハッシュタグ）・・・SNSで投稿する際にキーワードやトピックを表すための記号（タグ）



町会Twitterの
二次元コード

Twitterで投稿した行事の様子

1 いざ情報発信！

若い世代にも知ってほしい！ イベント情報や街の魅力を伝えています！

～Instagramを活用した情報発信～



春日町町会
組織部部长
金子 平次（62歳）

◆Instagramを導入したきっかけ◆

町会としてホームページは運用していましたが、単方向の発信かつこまめに新しい情報を発信するものではなかったため、時代に合わせてSNSの開設を検討しました。当初は年配層でもユーザーが多いFacebookを始めましたが、若年層にも手軽にチェックしてもらえるInstagramも追って開設しました。現在は、それぞれのアプリを連携し、Instagramによる投稿が自動でFacebookにも反映されるよう設定しています。

◆導入にあたって苦労したこと◆

運用メンバーおよび運用ルールを固めること、投稿内容や更新頻度を定めることは苦労しました。運用メンバーの負担を考慮することやイベント写真を掲載するときの個人への配慮などは、事前に検討するべきことなので、町会で決めて共有しておくと思いいます。ただし、全ての運用ルールを決めることは難しいので、現在も模索しながら運用している部分もあります。

◆現在の運用と導入してよかったこと◆

イベントの事前告知や開催後の報告、街の魅力を不定期で発信しています。街の魅力については、商店へのインタビュー記事や季節ごとに街の様子などを投稿しています。もうすぐInstagramを導入して1年になりますが、告知したい内容が幅広い世代にスピーディーに届けることができるようになったと実感しています。また、SNSを見てイベントに参加しました！などのアクションも増えており、特に若い世代からは、SNSでの情報発信はありがたいという声もいただいています。



トップページ



Instagramで投稿したイベント情報



@KASUGACHO_CHOUKAI

町会Instagramの
二次元コード

1 いざ情報発信！

防災などに関する地域の情報を

『詳しく』伝えています！

～Facebookを活用した情報発信～



桜台親和町会
会長・広報部長
森谷 英一郎（62歳）

※写真は町会キャラクター
「さくらちゃん」です。

◆Facebookを導入したきっかけ◆

令和元年秋に東京を直撃した大型台風がありました。その時に、防災の観点から地域の方々にリアルタイムで情報を伝達・共有する手段が必要だと痛感し、町会名でのFacebookの運用を開始しました。

◆活用の仕方と気を付けていること◆

町会としてはFacebook以外にTwitter、LINE公式アカウント、ホームページも情報発信ツールとして活用しています。ホームページのコンテンツを基本として、SNSでは簡略版（概要とリンク）を発信しています。また、天候によるイベント変更など、リアルタイムの情報が要求される場合にはSNSを重視しています。そのうち、FacebookはTwitterよりも入力可能文字数が多いので、より多くの情報を伝えることができます。現在、SNSは様々なアプリが混在しており、どのSNSを利用するかはユーザーによって異なります。運営側は、様々なコミュニケーション媒体と連携できるよう、発信するコンテンツを常にシンプルにしておくことが大切だと感じています。

◆導入してよかったこと◆

これまでの回覧板や掲示板のような紙媒体による情報発信は、提供できる情報量に制限があります。それに対して、ホームページやSNSなどの電子媒体は提供できる情報量にほとんど制限がないため、データや複数の写真を活用し、より詳しい情報を発信することができます。また、情報提供が一過性でなく、過去の情報も提供できることが強みだと感じています。



トップページ



Facebookで投稿した情報



町会Facebookの
二次元コード

2 スマホを使えば情報が得られる！

せっかくつくったHPをみんなに見てもらいたい！
スマホの使い方をみんなで見よう！

～町会でスマホ教室を開催～

◆スマホ教室を開催したきっかけ◆

町会員から町会の活動が見えにくいという意見があったため、協働推進課を通じてホームページを作成し、町会活動を報告していました。しかし、町会員の中には、「スマホ操作が苦手なのでホームページが見られない」という意見があったため、基本的なスマホ操作やホームページ閲覧を目的としたスマホ教室を開催しました。

◆東京都の制度を活用してスマホ教室を開催◆

スマホ教室の実施にあたり、東京都の「地域の底力発展事業助成」を活用しました。会場手配および参加者の募集は町会で行い、講師は協働推進課に紹介していただいた「練馬区ITリーダーの会」の方に依頼しました。我々の町会は会館等を所有していないため、石神井庁舎の会議室を教室として利用しましたが、講師の日程と会議室の空き日程を調整するのに苦労しました。

◆開催してよかったことと今後の町会デジタル化に向けて◆

スマホ教室を実施したことで、ホームページの閲覧者が増えたため、これまでより多くの町会員にデジタルで情報を届けることができるようになりました。しかし、スマホを持っておらず、紙媒体での閲覧を必要としている方がいることも事実です。今後も町会のデジタル化を進めていく一方で、紙媒体を必要とする方への対策も同時に検討する必要があると考えています。



石神井町石神町会
総務部長
中津川 彰（83歳）



実際に開催されたスマホ教室の様子



石神井町石神町会ホームページ



ホームページの
二次元コード

POINT

- 事例紹介のように、閲覧板を町会ホームページにアップしているの町会員に見方を知ってほしいなど、スマホ教室を開催する目的を事前に決めておくといいでしょう。
- 講師の数に対して参加者の数を調整しましょう。個別指導が必要な場合は参加者を少なめに。



3 役員の連絡・会議が超便利！

(1) LINE (ライン)

役員間の事務連絡、手元にすぐに届きます！

～LINEを活用した連絡～

◆LINEを導入したきっかけ◆

令和4年、町会役員に現役世代の方を迎えたところ、その方から町会役員会の連絡にLINEを活用してみないかという提案がありました。そこで、役員会で話し合ったところ、ほとんどの方が家族での連絡等を目的にLINEを利用していることが分かったため、役員会のLINEグループを作成しました。



関町南北町会
会長
野口 渉 (73歳)

◆導入してあたって苦労したこと◆

LINEの操作自体は、前述のとおりすでに利用している方が多かったため、大きな問題はありませんでした。しかし、役員の中でLINEアプリの安全性に疑問を持つ方と、携帯電話端末の性能の関係で現在LINEの利用ができない2名だけは、別途電話で連絡しています。

また、LINE導入後、町会長以外の役員が行事の変更等を発信した際に、別の役員から「町会長は了解しているのか」という書き込みがあったため、町会長以外の方が該当の発信をした際には、町会長が確認済みであることをお知らせするため、「よろしく願いたします。」と書き込んでいます。

◆現在の運用と導入してよかったこと◆

主に日程調整や連絡、出欠確認としてLINEを活用しています。1回の書き込みで役員のほとんどに内容を伝えることができ、かつ相手が確認したかどうかもわかるため、役員間での連絡や出欠確認が簡単になりました。電話とは違い、すぐにLINEが見られなくても、読み手のタイミングで確認できるので何度も連絡する必要がなくなりました。



LINEのトーク画面 (イメージ)

POINT

- 個人との連絡だけでなく、グループを作成して複数人と相互に連絡をすることが可能です。
- 自分の投稿に「既読」が表示されることで、相手が投稿を読んだか確認できます。
- 日程調整や出欠確認をグループで簡単に行うことができます。
- 写真やデータなども共有することができます。
- LINE内の機能を使って簡単なアンケートを取ることができます。



3 役員の連絡・会議が超便利！

(2) Zoom (ズーム)

**会場がなくても大丈夫！暑さ寒さも関係なし！
どこにいても情報共有！**

～Zoomを活用したオンライン会議～



光が丘地区連合協議会
事務局長
横松 大作 (57歳)

◆Zoom開催をはじめたきっかけ◆

新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、当協議会の会議等が原因で感染者を出すことを避けるために、役員からの発案により、毎月1回開催している役員会をオンライン開催してみることにしました。

◆立ち上げから運用開始まで◆

ITに長けた役員が指揮を執り、月に2回集まり自主的な講習会を行いました。本格導入までには約3か月程を要しました。最初は慣れない出席者もいましたが、何回も行っていくうちに、対面での会議と同様、自由に意見交換ができるようになりました。

◆実際に運用してみて◆

対面での会議では会場からやや遠い役員もいます。オンライン開催により、寒暑の厳しい時期や夜間でも会場との行き帰りを気にせず、会議に参加しやすくなっています。また、これをきっかけに、部会のオンライン開催や、スマホ教室の実施、所属自治会で新たにSNS発信の取組みが生まれる等、デジタル活用の時代の流れに対して、抵抗感が少なくなっていると思います。



オンライン会議の様子

POINT

- Zoomアプリを使用することで、自宅や出先から会議に参加することができます。
- 新型コロナウイルス感染のリスクを気にせずに会議を実施することができます。
- 画面切り替えで資料を共有できるため、紙で資料を印刷する必要がありません。



4 その他（呼びかければ見つかる人材）

手伝ってくれる人がいるか、素直に尋ねてみました。

～デジタル人材への呼びかけ～



北町二丁目町会
会長
村上 悦榮（81歳）

◆呼びかけの内容と成果◆

現在、当町会の情報発信の在り方は転換期を迎えており、会員の有無に限らず、ファミリー世帯や若者に向けての情報発信が重要だと思います。これからは、SNSを活用した情報発信が主流になりつつあります。情報発信の原動力として、デジタルが得意な若い世代の力を借りたいと思い、「デジタル化スタッフ募集」と銘打ったチラシを地域内で配布しました。

その結果が実を結び、30～40才代の2名から応募があり、仕事の合間に町会業務に協力してもらえるとのことだったため、さっそくイベント告知チラシの作成を頼んでみたところ、快く引き受けていただきました。

◆今後の展開◆

今後は、ホームページのリニューアル事業、Instagramの導入、回覧板の電子化などのデジタル活用に取り組む予定です。協力していただいた2名には、デジタル活用を進めるにあたっての貴重な戦力として期待を寄せています。



デジタル化スタッフ募集チラシ



作成したイベントチラシ



町会ホームページをリニューアル、
地域情報を充実



町会ホームページの
二次元コード

POINT

皆様の町会にも、今回紹介したようなデジタル人材が眠っているかもしれません。ですが、町会に協力したいと思っても町会に加入していなかったり、そもそも町会の存在を知らなかったりすると、デジタル人材は眠ったままになってしまいます。そういった方に呼びかけるためにも、チラシやホームページで募集活動をしてみてはいかがでしょうか。



あしがき



それぞれの町会・自治会から貴重なお話がたくさん聞けたね。ここまでの事例を見て、なにか気になったことやポイントだなと思ったことはあるかな？



情報発信を複数人で担当するというのが印象的でした。投稿内容を事前に相談したり、投稿前に確認できる相手がいると、不安感も和らぐし、個人への負担も軽減できるから、無理なく続けていけそうです！



SNSの仕組みやメリットについて事前に検討し、協議することも大事だよ。自分たちの団体には、どのSNSが適しているのかよく考えてからはじめるのが良いんじゃないかな。



あとは、すべてをデジタルにするのではなく、デジタルが苦手な方へも配慮しているという点が、地域住民皆のことを考えている町会ならではの取組だよ。



それぞれ大変なこともあるけど、デジタルを取り入れたことで成果があったことを喜ばれているように思えたわ。まずは、できる範囲で始めてみるということが重要なのかも。



みんなの言う通りだね、私もこの事例集をまとめるにあたって、いろいろな気付きもあったよ。この事例集を読んで「やってみよう！」と感じてもらった町会・自治会のサポートができるように、我々も頑張ろう！

協働推進課では、デジタル活用支援をはじめ、地域活動に対して様々な支援を行っています。

気になっていることやお困りごとがありましたら、ぜひご連絡ください！

協働推進課区民協働担当係 TEL:03-6759-9119

メール:KYODOSUISHIN@city.nerima.tokyo.jp



町会・自治会デジタル活用事例集

令和5年3月 発行

**編集・発行 練馬区地域文化部協働推進課
区民協働担当係**

電話 : 03-6759-9119

FAX : 03-6757-2026
